



松原代表取締役(左)と高日専務取締役(右)

ひと押しに思いを込めて はんこの新たな価値を提案



京都インバン株式会社

(代表者) 松原 常夫
(住 所) 京都市中京区四條新町上る小結棚町443
(TEL) 075-221-5601
(URL) <http://www.inban.co.jp/>
(事業内容) 印鑑、ゴム印、シヤチハタ印、名刺、印刷の製造販売

ひと手間から
生み出される
「任せて安心!」の
信頼と信用

印鑑、特に実印や銀行印などは、唯一無二の印影デザインが求められる。同社では、名前など印面の文字をデザインするときに、既存フォントをそのまま使うのではなく、それぞれの字の特徴に応じてトメ、ハネのバランスなどを考慮して製作する。また低コスト化・スピード化が進む中ですべての工程を機械に任せるとも少なくないが、同社は彫刻機での粗削り後に熟練の職人が手作業で仕上げを行っており、「手を抜かない」という信念が、お客様の信頼につながっている」と代表取締役の松原常夫さんは話す。

スタッフの多能工化にも力を注いでいる。例えば、版下作成の担当スタッフに、実際にその版下をレーザー機で彫刻する作業を経験してもらうことで、「一人ひとりが仕事の流れや内容を理解し、業務の枠を超えてサポートできるようになった」と専務取締役の高日結美さん。結果、個々人の負担が減り、休みが取りやすく働きやすい職場環境にもつながっているという。

年賀状を大切にする人へ
心に適うサービスで
リピーターづくり

年賀状印刷は、モノクロ主流の活版印刷の時代から二色刷りを提供するなど、「時代に先駆けたサービスや仕掛けづくりを考え、実践してきた」と松原さん。京都芸術デザイン専門学校とコラボレーションし、学生が考案したデザインを年賀状の絵柄にして販売するなど、若い感性とアイデアを取り入れた商品展開にも積極的に取り組んでいる。

今から数年前にはタブレットで年賀状の注文ができるシステムを新たに構築した。「これまでの経験値を生かしたシステム」というように、ボタン一つで絵柄を選んだり住所や名前などの入力ができたりするほか、メッセージの付け足し、レイアウトの調整など細かな要望にも対応が可能。印刷前のプレビュー画面をその場で確認できることから、従来の版下作成や校正作業の手間が減って時間短縮にもなり、より納得感の高いサービス提供につながっている。昨今、年賀状離れが進んでいるが、同社では年賀状印刷の売上は増加しているという。



「商品開発部」で自社のオリジナル商品開発に取り組む



ひらがなと書き順が覚えられる「おけいこスタンプ」



印章彫刻技能士が手仕上げを行う

女性が活躍できる
分け隔てのない
仕組みを構築

「新しいアイデアを形にしていきたい」と高日さん。レーザー機を使って加工した祇園祭の鈴のミニチュア雑貨など、培ってきた技術やノウハウを生かした商品開発に取り組んでいる。また、1年前には社内女性スタッフ中心の「商品開発部」を立ち上げ、子育て世代ならではの

の意見やアイデアを取り入れたものづくりを実践。中でもひらがなのゴム印をペタペタ押しながら遊び感覚でひらがなと書き順が覚えられる「おけいこスタンプ」は、知育教材としてカタログにも掲載され、保育園から注文が入ることも多いという。

大切に育まれてきた印章の文化を、時代ニーズに合わせた新たな形にして次代へ紡いでいく。

解説!! 知恵のポイント

Point.1 丸がかえの強み

法人印だけでなく、社員の認印やゴム印、名刺や年賀状まで、企業や店の事務作業に関するニーズにワンストップで対応。蓄積してきた顧客情報を活用し、スピーディーな受注と納品を可能にする。

Point.2 技術力の活用

国家資格である「印章彫刻技能士」の資格を持った熟練職人や、すべての製造工程を理解した多能工が、作業の内容及や量、難易度に応じて適材適所で技術力を発揮できる社内の仕組みを構築。

Point.3 アイデアを商品化

正社員やパートなどの垣根をなくして、アイデアを形にする環境を構築。培ってきた技術とノウハウをもとに、女性ならではの感性を生かした商品開発で、印鑑や印刷以外の分野にも新たなファンのすそ野を広げる。

応援
します!

経営革新・知恵の経営に取り組む企業のご相談にお応えします。
【相談無料】TEL.075-341-9781
中小企業支援部 知恵産業推進課